

研究テーマ
「児童の主体的な学びへつなげる指導の工夫」

本実践に関連する児童生徒の実態

対象児童 第1学年

課題	強み
注意が散漫で気が散りやすい。	様々なものに注意を向けることができる。
こだわりが強く、自分の決めたいやり方を最後まで通そうとする。	1つのことに、集中することができる。また、自分に合ったやり方を把握しているため、一定のパターンであれば落ち着いた活動できる。
間違いや失敗を素直に受け止めることが苦手である。	自分なりの思考パターンをもっている。また、他者の間違いや失敗を指摘することができる。

指導目標・指導仮説

教科等及び単元(題材)名
国語科 『じどう車くらべ』

目標(本実践終了時の期待する子供の姿)
自分で選んだ自動車をもとに、進んで図鑑づくりを行うことができる。

指導仮説
学習形態を工夫したり、提示する教材教具を工夫したりすれば、児童の主体的な学びを引き出すことができるのではないか。

↑

児童生徒の実態

指導・評価の計画

◆表1 指導・評価の計画

	主な学習活動	目標	評価方法
1次	①知っている自動車について交流する。	①自動車に興味・関心をもつ。	行動観察 発言
2次	②本文の内容を捉える。 ③自動車の「しごと」「つくり」を読み取る。	②大まかな内容を理解する。 ③「しごと」「つくり」の言葉の意味を理解する。また、該当する箇所を探す。	行動観察 ノート 学習シート 発言
3次	④教科書の書き方を参考にはしご車の「しごと」「つくり」をまとめる。 ⑤自分で選んだ自動車を紹介する文章を書く。 ⑥自動車図鑑を読んでもらう。	④「しごと」と「つくり」に分けて文を書く。また、つながりのある文章を考える。 ⑤既習事項を使って文章を書く。 ⑥他者と関わる。達成感を味わう。	行動観察 ノート 学習シート 発言

◆表2 実践前後の学習の評価

評価内容	評価方法
図鑑の中から教科書に載っていない自動車を決め、意欲的に学習シートに絵や文を書きこむなどして図鑑づくりをすることができる。	①児童の行動観察・発言 ②学習の成果物

指導の実際①【学習シートの活用】

【穴埋め形式】

【自筆形式】

学習シート①

学習シート②

【加筆形式】

スモールステップを意識し、学習シート①で考えた文を学習シート②に写すと、1つの文章ができるように工夫した。

指導の実際②【具体的イメージをもたせる】

模型・おもちゃ

試合の部分を細心に観ることで、試合の意味や、はたらかに観望させる。

紙芝居

紙芝居を観ながら、はたかに観望させる。

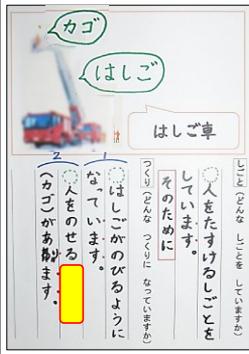
クイズ

クイズ形式でもと、児童の興味を高め、観望させる。

紙芝居

紙芝居を観ながら、はたかに観望させる。

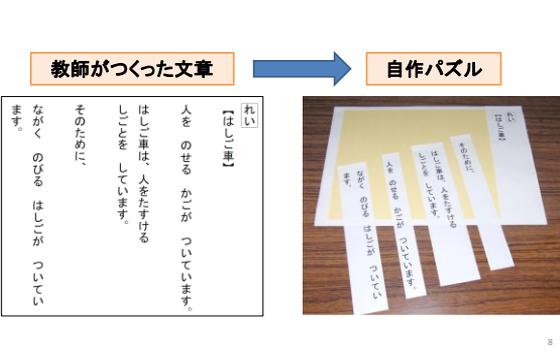
指導の実際③【受容と言い換え】



児童の発言の受容 (スペース)
児童の発言の言い換え (スペース→カゴ)

※ 児童の発言を否定するのではなく、教師が受容し、言い換える。
教師: 「スペース」、いい言葉を知っていますね。」
→「そして、このスペースは“カゴ”と言うのでしたね。すごい！」

指導の実際④【間違いに対する抵抗感の軽減】



学習課程の評価

次	学習活動	児童生徒の状況	達成状況
1	①知っている自動車について交流する。	①数種類の自動車の名前を挙げる事ができたが、実物と名前が一致していないものがあった。耳で聞いた音で自動車の名前を覚えているため、誤った表記の仕方でも覚えている。単元を始める前、工事に来た車両を観察させていたこともあり、興味・関心が高まっている。	○
2	②本文の内容を捉える。 ③自動車の「しごと」「つくり」を読み取る。	②自動車について書いた文章であると理解している。 ③「？」がつけられそうな文を探することで、「問い」と「答え」を見つけている。「答え」は「しごと」「つくり」の2つが必要であると理解している。	○
3	④教科書の書き方を参考に、はしご車の「しごと」「つくり」をまとめる。 ⑤自分で選んだ自動車を紹介する文章を書く。 ⑥自動車図鑑を眺んでもらう。	④学習シートを使い、「しごと」「つくり」に分けて文が書けている。「そのために」が「しごと」「つくり」をつなげるものであると理解している。 ⑤図鑑に載せたい自動車を、意図的に探している。「誰も知らないような自動車を書きたい」という思いから、時間をかけて選んでいる。 ⑥教室に来た友達や先生方に、自分から図鑑を見せに行っている。	○

実践前後での児童生徒の変容

実践前	実践後
<ul style="list-style-type: none"> 注意が散漫で気が散りやすく、1つの活動を継続して行うことを避ける。また、文を書くことに苦手意識をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章としてのまとまりを考えて書くことを苦手とするため、学習シートを工夫し、スモールステップで文の書き方を学習させたことで、苦手意識をもつことなく、図鑑づくりを行うことができた。
<ul style="list-style-type: none"> 相手の話を最後まで聞くことが難しい。また、興味の無いことについては、聞くことしない。 こだわりが強く、自分の決めたやり方を最後まで通そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵や写真だけでなく、おもちゃ(具体的なイメージがもてるもの)を活用すること、意図的に取り組めた。 児童の発言を否定するのではなく、一度は受け止め、児童の言葉別の表現にかえて示したり、別の選択肢を与えたりすることで、児童は納得して考えられた。 教師が意図的に間違えてみせたり、児童に思考させたい場面で極端な例を挙げたりすることで、児童は抵抗感を減らしつつ、間違いに気づくことができた。
<ul style="list-style-type: none"> 間違いや失敗を素直に受け止めることが苦手である。 	

指導仮説の検証

- 児童生徒は目標を達成したか
 - 概ね達成できた。
- 判断の理由・根拠
 - 図鑑に載せる文を書くために、学習シートをスモールステップ形式にしたことで、「あ、前にも同じような言葉が出てきた！今度は書ける！」と、意欲的に学習する姿が見られた。
 - 模型を活用したことで、「こんなトラック見たことない！(本文中で紹介されているトラック)これだよ！(トラックの模型を手にとって)」と、楽しみながら荷台の意味やはたらきを考える姿が見られた。
- 指導の工夫は有効であったか
 - 有効であった。
- 判断の理由・根拠
 - 学習シートを、穴理め形式→加筆形式→自筆形式にしたことで、児童が重要な語句に着目したり、繰り返し本文を眺んだりしながら、自分で「しごと」「つくり」を考えようとする姿が見られた。
 - 模型やおもちゃを活用することで「荷台」の意味を理解できた。また「広い・狭い」「伸びる・縮む」などの語彙を、操作を交えて口に出して言ったり、文中に当てはめて使ったりする姿が見られた。
 - 教師が作成した文章の間違いを、楽しみながら修正する姿が見られた。

指導の改善案

成果(よかった点)	課題(改善が必要な点)
<ul style="list-style-type: none"> 学習シートをスモールステップ形式にしたことで、自動車の「しごと」「つくり」を児童に考えやすくなった。 模型やおもちゃ、自作紙芝居等を使い、具体的なイメージを児童がもてるようにしたことで、理解を助けることができた。また、児童が文中の大切な語句や表現に目を向けることができた。 児童の発言を指導に生かしたり、教師が作成した文章の間違いを見つけさせたりすることで、児童の意欲的な学習姿勢を引き出すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導の実際④で使用したパズルによって、児童が文章のねじれに気づき、つながりのある文章へ組み替えることができたが、児童の実態からすると難易度が低すぎたため、深い思考にはつながらなかった。 単元全体を通して、教師が必要以上に手立てを講じ、支援し過ぎる場面があった。そのため、学習内容の理解はできても、考える力を引き出し、思考力を高めるところには至っていない。児童の実態に即した学習課題を与え、「あと少し考えれば解けそうだ」という絶妙な難易度を設定する必要がある。
<p>成果・課題を踏まえた改善案</p> <p>①児童が、少し頑張れば達成できそうなレベルの学習課題を設定する。そのための実態把握を丁寧に行い、学習シートや教材づくりに生かす。</p> <p>②児童の反応を想定し、手立てを複数用意しておく。また、必要以上の支援は行わず、児童が困ったときに教師に助けを求めさせるなど、課題発見・解決力も同時に育成する。</p>	